

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク

2014 年度事業報告書

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

目次

2014 年度 総括	2
中間支援団体活動支援事業	3
ソーシャル・ビジネス応援プラットフォーム事業	6
観光地域力アップ事業	13
組織概要	25

2014年度 総括

2010年6月9日、NPO法人 京都丹波・丹後ネットワークを設立して以来、①NPO法人等ネットワーク構築・活動支援事業、②人づくり事業、③地域デザイン（収益事業）などを軸に、人と人、団体と団体（NPO、自治体、企業、行政など）のネットワークを構築することにより、京都丹波・丹後（今年度については京都丹波が中心）地域の活性化をめざし、活動してまいりました。



さらなるネットワークの構築を目指して

今年度においては、京都府の受託事業「京都観光地域力アップ事業」による海外からの誘客及び受け入れ態勢の強化を内容とした事業、「ソーシャル・ビジネス応援プラットフォーム人づくり事業」の継続事業である地域デザイン事業によるイラストやデザイン写真・動画などに物語をプラスして、地域をトータルデザインする事業の2つを行う中でNPOの活動資金も稼げる仕組みを目指してきました。

次年度においてはこれらの事業をさらに発展させ、地域の活性化と当NPOの活動継続の両立を目指していきたいと考えています。



財政面について

様々な活動を行うに当たり、やはり大きな課題は財政面（資金の確保）です。いつかは助成金などに頼らない財政を目指したいとは思いますが、前年度から収益事業を開始しましたが、それだけで活動資金を得るには程遠く、現実にはまだまだ府などの受託事業や助成金などに頼らざるを得ません。

また、盗難事件や豪雨により、現金及びパソコン・書類などたくさんのものに被害が及び活動に支障をきたしました。

次年度においても京都府の受託事業獲得を目指すともに、支援して下さる個人・団体を増やすこと、そのためにも人件費やこれからの活動費を稼げるための事業内容の充実や情報発信を積極的に行っていきたいと考えています。

中間支援団体活動支援事業

～地域人材の発掘とネットワーク化による NPO 等活動支援事業～

事業の種別…活動基盤整備支援

- ・地域力再生活動団体等ニーズ調査等事業

予算・収支…400,000 円（中丹振興局からの受託事業…概要 1）

期間…2014 年 4 月～2015 年 3 月

- ・その他支援事業

予算・収支…0 円

期間…2014 年 4 月～2015 年 3 月

従事した労働者数…5 名

概要：

1. 京都北部（中丹中心）にある NPO 法人及び任意団体に対してニーズ調査を行い、マッチング交流会を行う（中丹振興局との協働事業）と同時に、調査結果に基づいた様々な支援を行う…地域力再生活動団体等ニーズ調査等事業
2. 地域の人・団体・企業などをつなぎ、地域活性化につながる仕組みを作る
3. 豪雨災害により被災した NPO の調査と支援、チャリティイベント等の開催・企画など
4. NPO 法人等及び行政、地域、大学、企業などとの連携を強化し、ネットワークを構築、協働体制を整えていく



地域の課題を解決し、地域活性化へ



地域力再生活動団体等ニーズ調査等事業（中丹振興局等の協働事業・受託事業） 予算：400,000 円

内容：

- ・調査対象団体へのアンケート調査（ヒアリング 31 団体対象）
- ・マッチング交流会の開催支援

ヒアリングの中で上がった要望のうち、当 NPO が支援した内容

- ・音楽等文化関係の団体について、地域を盛り上げるためのイベント開催に向けた話し合いの場を設けた。
- ・山間部の農業及び田畑の持続を考える中で、何を生産するのが効率的か、または販売先をどうすればよいかという相談に対して、農作物の販売等を行っている会社とマッチングし、今後の販売先などに対するアドバイスや提携などを話し合う場を設けた。

Web ページ及び Facebook ページの更新 (HP アドレス: <http://www.kyoto-tantan.net/>)

Web ページ内容: 当 NPO の活動内容等の情報と、中丹を中心とする NPO 主催のイベントなど

Facebook ページの内容: 京都北部の良さや NPO 主催のイベントなど日々の話題などを中心に情報発信



Web ページ



Facebook ページ

情報発信支援 相談・フォロー (2件)

内容: NPO 法人に対して PC 操作等についての支援を行った。

助成金等申請支援 申請補助・相談・フォロー (申請補助 1 件、相談等 5 件)

内容: したいことはあるが、活動資金が不足しているため実施が難しいという相談があり、このような助成金を使用してはどうかというアドバイスを行い、そのうち 1 件については、申請書の書き方などについても支援を行った。

会計支援 相談+フォロー (3 回)

内容: 以前講座等に参加していただいた団体や NPO のフォローを行った。

マネジメント支援 労務管理相談 (2 回)

内容: 福祉系 NPO に対して、労基法に基づいたスタッフの管理体制についての相談等を受けた。

人・団体・企業とのネットワークづくり

主に文化活動をしている団体や個人に呼びかけ、福知山で夏のイベントを復活させるためのワークショップを開催

豪雨災害による NPO 調査とチャリティイベントの企画開催

- ・ 昨年 8 月の豪雨による NPO の被害を調査するとともに、必要な支援や情報の発信を行い、企業から寄付していただいた文房具などを配布した。
- ・ また、被災された市民の方々に元気になってもらうため、チャリティイベント「Re Smile 福知山」を開催。

三和出身の、東京でフレンチレストランを経営されている方などのご協力により、2,000 名を超える来場者となった。

- ・ 京都府主催の絆フェスタ、中筋町商店街主催の“NEVER GIVE UP 福知山”などのチャリティイベントの企画・コーディネート等



支援事業全体を通して

事業成果：

- ・ 当初京都府の受託事業という形で財源を得て行ってきた支援事業も、そういった形の受託事業が無くなったことに加え、時代の要請と共にネットワークづくりやコーディネートなどを主体としたものに変わってきたが、情報発信や会計実務については相談・フォローを継続、またあらたな団体からの助成金申請や法人の税務に対する相談、情報発信の相談なども寄せられた。

反省点、改善可能な点、課題など：

- ・ 課題は、昨年度に引き続き、今後予算が立てられない中で、今までの支援をどのように継続していくか、また、これから必要とされる支援をいかに早く察知して実効あるものにできるかだと思っている。

今年度の事業の中から生まれたネットワークをさらに強固なものにしていくために、人や企業をつなぎ、新たなコトおこしの芽を育てること、その基盤作りで重要となる情報発信を支援することを中心に次年度以降の事業を組み立てていきたいと考えている。

ソーシャル・ビジネス応援プラットフォーム事業

概要

予算：3,486,784 円

収支：3,488,180 円

収支差額：－1,396 円

京都府受託期間：平成 26 年 4 月 1 日から平成 26 年 7 月 31 日まで

※ ただし、受託期間終了後も事業は継続

雇用者：2 人

1 事業の趣旨

事業への想い

地域の人材（I ターン・U ターンを含む）を発掘し、地域や滞在型ツーリズムをトータルデザインができるソーシャルデザイナーを育成することにより、雇用の創出、若者の定住等につなげる。

また地域情報やコンテンツをデザインし、京都北部の情報発信力を高め、魅力ある発信を行うことにより、地域経済の活性化を促す。

地域と地域、団体と団体をつなぎ、コーディネートすることにより、京都北部が一体となった活性化を進める支援を行う。

事業背景と特徴など

【京都北部の課題と事業化の背景】

・京都北部は海の京都、山の京都を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、地域自体もその魅力をどのように活かせばよいのかわからず、京都北部の魅力を伝えきれていない

【特徴】

そこで、今回の事業では

- 地域（人・商品・文化・歴史・企業など）やツーリズム（街歩き企画など）をトータルにデザインするための支援を行い、また他地域とのコーディネートなどを行う
 - マンガ・イラスト・写真・書＋ストーリーをツールとして活用し、地域の情報発信を支援する。
 - 京都北部の地域力ビジネスを情報発信の部分で支援するとともに、協働プラットフォームのそれぞれのプラットフォーム（京都北部を中心として）をつなぎ、それをトータルに情報発信する仕組みを確立する
- という 3 点を重視して、京都北部の活性化に取り組んだ。

2 事業の概要等

●地域力ビジネス応援プラットフォーム会議

【趣旨】

ビジネス的な手法で、地域の仕事や雇用を生み出す「京都式ソーシャル・ビジネス」に取り組んでいる団体を応援するため、アイデアやノウハウを集め、企画を生み出す場。

日付	名称	出席者	内容
4/8	第22回応援プラットフォーム会議	瀬野 金輪	「春のちーたび共同広報事業」の進め方について 春の産業フェスタへの出展案内 5/17（福知山） 5/24,25（伏見パルスプラザ）
6/17	第23回応援プラットフォーム会議	森田 金輪	6・7月事業の実施状況 秋のちーたび事業の見込みと課題等について
7/1	第24回応援プラットフォーム会議	瀬野 金輪	秋のちーたび事業の内容について 秋のちーたび事業を盛り上げるための手法等について



●地域力ビジネス応援プラットフォーム協働事業

【趣旨】

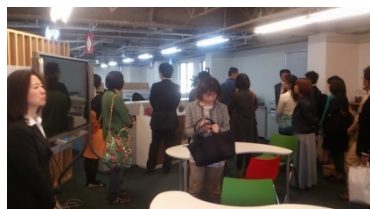
「ちーたび(まちあるき)」 「ちーびずマルシェ」 「ちーびず 女子のイチオシカフェ」の3本柱で京都府と民間が協働し、団体・事業者を様々な形で応援する協働事業。

4/15 地域力ビジネス現地で学ぶ交流セミナー第5回リノベーションに学ぶ
(梅小路公園市電カフェ→京果会館→(株)ウエダ本社 (京都市下京区))

【内容】

株式会社ウエダさんは儲けるだけの企業にならないように地域を活性化させることに重きをおいており、ソーシャルビジネスを実践している企業の一つ。

新しいビルの活用方法として、入居の他に安く起業できるチャレンジショップや地域の課題解決人材を育てるセミナールーム等が一体となった空間をプロデュースしたり、紙で作った事務用品、木材にこだわった事務用品も手掛けており、とてもクリエイティブな空間や感覚がとても刺激的で参考になりました。



●地元企業応援のためのトータルデザイン



以前、取引のあった地元の民間バス会社から、再び応援・サポートの依頼を受けた。依頼内容は、バス会社と当 NPO が協力して地元の植物園を応援する方法の考案から実行まで。

前回のラッピングバスの成功があったので、バス会社と当 NPO の強みを活かして植物園の主な四季の植物を元に、イラストを使ったラッピングバスによる情報発信を提案した。

企画はバス会社、植物園の双方にも好評で、すぐに実行に移されることになった。提案から納期まで1週間という厳しいスケジュールになったが、写真撮影や取材、イラスト作成など、各メンバーがそれぞれチームとしての役割以上の働きをして、なんとか納期に間に合わせる事ができた。

デザイン面でも、前回のラッピングバスの約2倍の面積にあたる片側全面を使ったデザインとなり非常に難しいものとなったが、地元デザイン会社の協力もあり良いものができたと思う。

その結果、バス会社、植物園の方にもとても喜んでもらうことができ、次に繋がる手ごたえを感じた。また、今回のデザインも京都新聞などに取り上げてもらった。

今回はバス会社そのものではなく、バス会社とタッグを組んで別の地元企業を応援するという流れになったが、情報発信の可能性を改めて感じる事ができ本当に良い経験になったと思う。今後の課題として、これで満足せずに今回の成功を足掛かりとして、つねに新しい考案をしていくことで、情報発信の大切さをアピールしていかなければならない。

●地域活性化のための情報発信イラスト



地元地域を盛り上げるための足掛かりのひとつとしてイラストを描いた。

京都北部にはたくさんのお寺があり、そのどれもがとても素晴らしい観光地になる可能性を秘めている。

例えば舞鶴市の海臨寺などは、緑に囲まれた門構えがとても幻想的で、まるでアニメの一コマを切り取ったような場所だが、インターネットで検索してもほとんど情報が出てこなかった。

お寺は今は若い世代にも人気があるニッチなスポットで、少しでも地域活性化に繋がる可能性のあるものは、どんどん情報を発信していくべきだ。

10か所、20か所と情報を発信していくうちに、ひとつでも大きな広がりとなってくれば、他にも追従してくれるところや共感してくれるところが出てくると思う。

今後の課題として、どう情報を発信していけばより良い効果を得られるか。

先を見通した展開を心がけていかなければならない。

●外国人観光客に向けた情報発信のためのポストカード



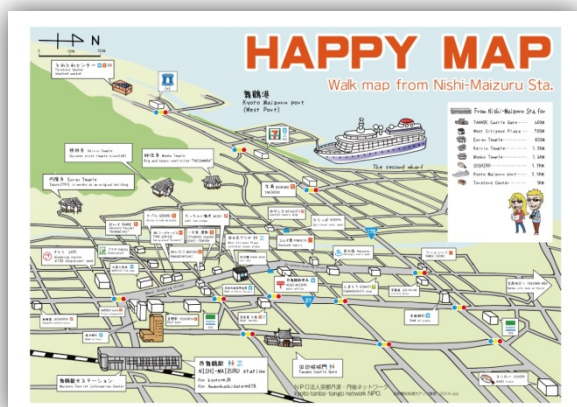
今年は地元舞鶴に海外からの大型クルーズ船が数多く入港してくるため、外国人観光客に京都の良さを知ってもらうために風景写真やイラストを使ったポストカードを作成し、当NPOで行っている観光事業スタッフが外国人観光客に向けたアンケートを実施する際、回答してくれた方へのお礼として配布した。

ポストカードは10種類用意し、好きなカードを選んでもらうことで、どのような写真・絵柄、場所が外国人観光客に人気があるのかを知ることができた。

今回の試みから、情報を発信しながら別の情報を集める方法を確立でき、また応用次第でさらなる効果を望めることがわかった。

今後の課題は、集めた情報をどんどん発信していき、地域活性化のための拠点として周囲に認識してもらえるよう努力していくことである。

●舞鶴活性化のための観光マップ作成



当NPOが行っている観光事業スタッフと協力して、外国人観光客に向けた西舞鶴周辺の情報発信のための観光マップを作成した。

従来の観光マップが年配者には少しわかりづらいところがあったことと、また道を聞かれたものが説明しづかったことを踏まえ、信号のある個所を記載したり、イラストで寺などの観光名所等を表すなどの工夫を加え、新たなマップを作成することとなった。

マップ自体なかなか形にするのが難しく、良いイメージが浮かばなかったが、観光事業スタッフなどのアドバイスによって、なんとか形にすることができた。

情報発信事業と観光事業は相性が良く、お互い協力することによって様々な可能性があると感じた。

今後の課題としては、このような繋がりをさらに増やし、様々な角度からアンテナを立てて地域の声聞き、より深く適切な情報発信ができるように精進していくことである。

4 事業体制

管理運営スタッフ

氏名	役割
森田 洋行	ちーびず事業、営業等対外的職務の補助
東家 零子	ちーびず事業、労務管理・会計実務等の補助

事業担当スタッフ

氏名	役割
瀬野 祐太	ちーびず事業、営業等の実務、
金輪 哲弘	ちーびず事業、デザイン等の事業

協力者から抜粋（敬称略・抜粋）

氏名等	役割	備考
兼本 博行	デザインアドバイザー	株式会社アंक
渡辺 康一	IT アドバイザー	デジタルハリウッド大学大学院 客員教授
平岡 秀章	イラスト クリエイター	イラストレーター

5 事業の成果～受託事業を終えて～

京都北部の魅力を伝えるため 1 年間行ってきた京都式ソーシャルビジネス応援プラットフォーム人づくり事業。地域の課題解決の為にヒアリングや情報発信を行う中で、新たな出会い、人との交流、ネットワークの構築、仕事を頂けたときの喜びなど自分にとっても組織にとっても多くの財産ができた。また情報発信のサポートとしてデザインを手掛ける中で、相手の要望を叶えられたもしくはそれ以上のものができた時、また実際に使用されているのを見た時の感動は入で、ソーシャルビジネスを続けていく上でモチベーションとなっており、ビジネスの楽しさ、そして達成感を感じることができている。

しかし同時にビジネスの難しさに直面している。

今後は、将来も見据えて、地域の課題解決とビジネスが両立できるよう目標やスケジュールをきっちり立て、永続的に運営できるように考えていかないといけない。

6 受託事業終了後の事業成果

●HP作成：西舞鶴商店街、東舞鶴商店街及びNPO法人福知山 BGM 福祉サービス他について、今までにない目線に立ったHP（たとえば外国人目線・水兵さん目線など）を提案・作成した。

<参考>



東舞鶴商店街HP

●地域イベントチラシ等の作成：舞鶴金剛院のイベントチラシや西中筋商店街チャリティイベントちらしなどの作成



金剛院竹灯りイベント



西中筋商店街チャリティイベント

京都観光地域力アップ事業

概要

予算：11,876,183 円

収支：11,805,199 円

収支差額：70,984 円

京都府受託期間：平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 30 日まで

雇用者：2 人

1 事業の趣旨

事業の目的

京都市内に集中していた外国人観光客を、外国人目線に立った京都北部の魅力、里山の魅力を探し出し、実施されている体験型ツーリズムなどを視覚的に発信することで、京都北部の外国人ファンの増加と、ひいては外国人の京都北部への定住や、里山観光事業への若者たちの参加につなげていく。

また、今まであまり実施されてこなかった外国人観光客困りごとノート（仮称）を作成し、改善・解決策を話し合うワークショップの開催などにより、京都北部が新しいインバウンドツーリズム先進地となるような環境整備を行う。

事業の背景・課題と特徴

【京都北部の課題と事業化の背景】

- 京都北部は海の京都、山の京都を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、全国及び海外に京都北部の魅力を伝えられていない。
- 観光消費額が京都市内に比べ圧倒的に少ない。
- 海外観光客を受け入れる体制・呼び込むための仕掛けが整っていない。
- 舞鶴港は現在日本海側拠点港外航クルーズ分野に選定され、サン・プリンセス号等の客船が寄港するなど、海の京都を発信するための絶好の機会である。

【事業の特徴及び実施方法】

- 外国人が魅力と感じる観光資源を外国人の目線で探しだし、合せて外国人が観光で困っていることを調査して改善策を考え、受け入れ体制を強化していく。
→外国人困りごと調査と観光資源調査を実施
- 外国人にも人気のマンガや書・写真・動画などにストーリーをプラスして、海外への視覚的情報発信の仕組みを作る。
→写真や動画、イラストなどを取り入れたHP及びフェイスブックページなどのSNSによる、情報発信ツールを作成
- 現在情報発信等の支援をしている西舞鶴商店街を中心に、おもてなし英語塾（仮称）や困りごと解

決ワークショップ（仮称）を開催し、外国人観光客に対する対応から看板・環境などをひとつずつ整備していく

→おもてなし英語塾（基礎編・応用編の開催）、英語版マップの作成、舞鶴の古民家（幸嘉庵）での週1回ワークショップの開催

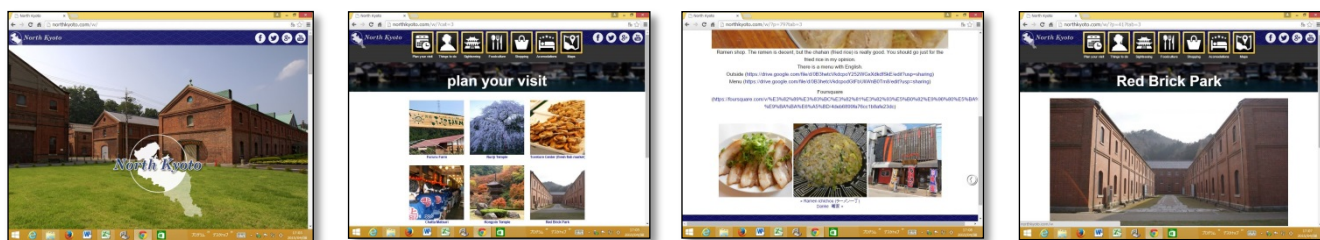
2 事業の概要等

具体的な事業内容

【外国人の目線による京都北部の観光資源の調査・発掘】

→探しだした観光資源は、写真や動画、イラストなどを用いて、HP（英語&スマホ対応）により外国人向けに情報発信

HP…URL <http://northkyoto.com/>



（成果及び課題）

とりあえず英語に対応する HP を作成したが、他に中国語・韓国語は必須であり、まだまだ工夫すべきところもたくさんあり、そのためのコストをどうするか及び、これをどのようにして多くの外国人観光客に見てもらえるようにするかが大きな課題である。

【観光地での外国人の困りごと調査】

→クルーズ船の寄港時および外国人の多く訪れる民泊などでアンケート調査

総回収枚数：400枚（クルーズ船寄港時実施回数4回＋民泊に依頼5件）

分析結果

● 基本情報

✧ 男性・女性の比率はほぼ同数

✧ 年代は60台がほぼ半数を占めており、比較的年配者が多い

✧ 国別比率は、オーストラリア、アメリカ、イギリス、メキシコ、カナダなど欧米が上位を占め、アジアからはあまり多くなかった

● 困りごとについてのトップ6

1. Wi-Fi スポットが少ない…………… 34%
2. 日本語の表記のみ…………… 33%
3. クレジットカードが使えない…………… 13%
4. 両替できる場所がない…………… 11%
5. 券売機などの使用方法がわからない…………… 5%
6. 休憩スポットが少ない…………… 4%

(成果及び課題)

この事業での困りごと解決としては、2の日本語の表記について、英語版のマップ作成という形で対応したが、予算等により看板などの作成は今の段階では難しいのが現状である。しかしながら舞鶴においては1のWiFiスポットについてはすでに対応を考えているようであり、その他の困りごとについても行政や観光協会などと結果を共有し、今後の解決につなげていきたい。

● 目的地（旅行先）をどのような方法で検索したか

- ◇ パンフレット ……………40%
- ◇ ガイドブック ……………25%
- ◇ 口コミ ……………18%
- ◇ インターネット ……………15%
- ◇ SNS …………… 2%

(成果と課題)

今回の事業では、インターネット、ネット口コミ、SNSの活用に対応するHP及びフェイスブックページを作成したが、調査した観光客の年齢によるものなのか、パンフレットやガイドブックを活用する率が意外と高かったため、今後どのようなものを作成するとよいのか、置き場所をどうするのかなどを工夫して、京都北部の各国語版パンフレットやガイドブックを作成できればと考えている。

● 訪日回数

- ◇ 1回目 ……………67%
- ◇ 2回目 ……………8%
- ◇ 3回目 ……………5%
- ◇ 4回以上 ……………20%

(気づき)

訪日回数を見ると、確かに日本へ初めて訪れたという人が圧倒的ではあるが、4回以上の人が20%を超えていることは驚きであり、リピーターが多いことに気付かされた。

● 京都北部を旅しての感想

(好意的なもの)

- ◇ （言葉は通じなくても）人が親切でひとなつっこい、あるいはとても素晴らしい、平和的…感想の大半を占めていた
- ◇ 街がとてもきれいである、何処に行っても美しい…この感想もとても多かった
- ◇ のどかな風景、日本の原風景
- ◇ 着物体験&写真撮影がとてもよかった
- ◇ 学生（高校生）がガイドしてくれたのがとてもよかった。片言の英語で一生懸命教えてくれた（クルーズ船寄港時に、地元の高校生によるガイドが行われていた）

- ◇ ぜひもう一度訪れたい
- ◇ 日本及び日本人は不思議で趣がある

(改善が必要なところ)

- ◇ 観光地への道がわかりにくく、船に引き返した
- ◇ 寺などとても美しいが、英語表記が少なく残念
- ◇ Wi-Fi スポットがもう少しあれば友達にもこの地域のことを教えてあげられた
 - ※ 詳細については別添「困りごと調査分析結果」参照
 - ※ 分析により、すぐに改善できないものや当NPOだけでは改善できないものについては、今後もワークショップを重ねる中で改善策を考えていく。

(成果及び課題)

好意的な感想として、人の素晴らしさと街の美しさはそれだけで売りになる。

英語（他国語）をしゃべれることよりも、たどたどしくても伝えようと努力してくれる姿が伝わるのだと感じた。

また、街の美しさ、清潔さについては、日本人の人間性やルールなどを伝えてあげられたら、それを見に訪れる外国の都市（行政）も増えるのではないだろうか。

また、学生がガイドするということがとても新鮮に映ったようで、学校教育の一環として、このようなカリキュラムを組めば、国際感覚を身につけることもできるし、生きた英語を学ぶことにも通じる。

【おもてなし英語塾の開催】

（目的）外国人観光客に対するおもてなし英語の習得

おもてなし英語塾を月 1 回程度計 **10 回（延べ 168 人参加）** 開催（舞鶴基礎編 3 回→福知山基礎編 3 回→舞鶴応用編 **4 回**→福知山応用編 **3 回**開催）

【クッキングリッシュの開催】

（目的）イギリスの文化に接しながら、料理を作る作業を通じて英語を習得する

綾部吉水でイギリスの女性を講師に **3 回（延べ 39 人参加）** 開催

(成果と課題)

基礎編の講師である外国人は日本語も堪能であり、教え方もうまく、毎回とても好評のため、ほとんどの回で定員を上回る申し込みがあった。

また、内容についてもうまい英語ではなく、(少ないボキャベラリーでも) 伝えたいことを伝えられる英語（あるいはあらゆるツールを利用してコミュニケーションを成立させること）を目指したため、参加者のレベルはさまざまであったにもかかわらず、ほとんどの人が脱落せずに何度も参加してくれた。

後半においては応用編として、実際に外国人に対して仮想ガイドを行うなど実践的な英語塾としたため、京都北部に外国人が多く訪れるようになったときに、おもてなしができる英語力と勇気が身についたのではないかと考えている。

クッキングリッシュにおいては実際に日本で暮らすイギリス人女性を講師として、料理と一緒にすることでコミュニケーションが取れるようにすると同時に、互いの文化の違いなどを話す中で、さらに親交を深めることができた。

今後もこのような講座を続けてほしいという声は多いのであるが、謝礼金などを考えるとなかなか難しいこともあり、何らかの形を考えていきたいと思っている。

【ワークショップ等の開催】

●てらこやさいかあん

西舞鶴にある古民家（幸嘉庵）において、「てらこやさいかあん」を10月より週1回程度開催

～開催目的～

様々な職種、立場の目線から国際観光都市に向けて舞鶴はどうあるべきかを考え、少しずつ形にしていく場「てらこや さいかあん」という学び、繋がる場を創出。

少しずつできるところから国際化に対応できる街の環境づくりを行い、世界に通用する人材を育成し輩出することを目的としている。

～内容～

- ワークショップ：国際交流都市「舞鶴」に向けた環境整備、企画等のアイデア出し
- 講座：国際交流に必要なスキルを学ぶ講座の開催

～参加者～

- 舞鶴を中心として活躍しているデザイナー、行政マン、中国語・韓国語・英語に長けた者など

●外国人交流会（外国人としゃべらナイト）

英語塾やワークショップを重ねる中で、外国人と日本人の距離を縮め、互いが心を開いて話せる場が必要であると感じて、当事業の最終月に年齢・性別・国籍を問わないで互いの文化や習慣、食べ物などについて語り合う交流会を開催した。

参加者は日本人、アメリカ人、フランス人、ベトナム人合わせて40名。

場所は、国際都市になってもらいたいという思いも込めて、舞鶴赤煉瓦倉庫群の中にある「赤煉瓦カフェ ジャズ」で開催。

（成果と課題）

英語塾やワークショップ、交流会などを重ねる中で、外国人を呼び込むためには何が足りないかが見えてきたが、それを解決するためには一つには受け入れ側の意識改革が必要であり、また、環境を整備するためにはどうしても資金が必要となる。

残念ながら次年度における海の京都をはじめとする観光等の構想において、中心となるのはリスクの少ない大手企業であり、我々地元の中小企業やNPOにはなかなかチャンスをもたらうことができないのが実情である。

せっかく芽生えた商店街や市民の人たちのおもてなしの心をさらに成長させていくために、協力をお願いしたい。

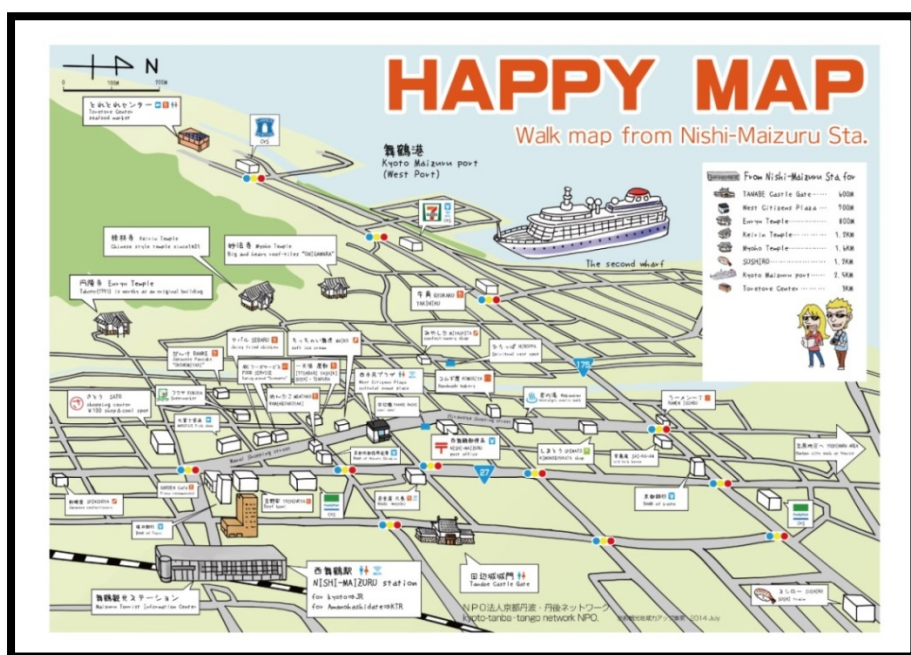
【環境整備】

アンケートの分析結果及び商店街等への聞き取りなどから、おもてなし側にとって説明しやすく、旅行者側にとって見やすいマップが必要と考え、主だった中丹地域の観光地などのマップを作成した。

(成果物)

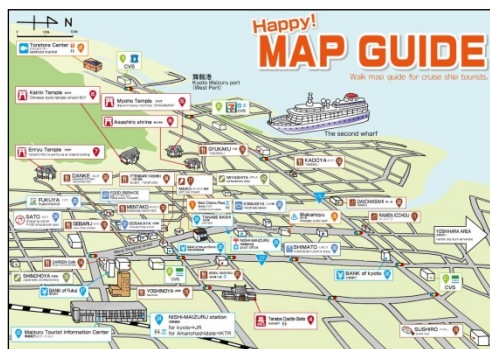
- 西舞鶴の英語版マップ (HAPPY MAP)

→クルーズ船寄港時、案内する側・される側双方が道案内に支障をきたしていたため、イラストなどを工夫し、見やすく、案内しやすいものを作成し、商店街などに配布するとともに、当日ボランティアガイドをしていた高校生にも活用してもらった。



- 西舞鶴の英語版マップガイド (HAPPY MAP GUIDE)

HAPPY MAP 掲載の店舗情報を掲載したガイドパンフレットを作成。クルーズ船の観光客が、西舞鶴をさらに楽しんでもらえるような工夫をした。

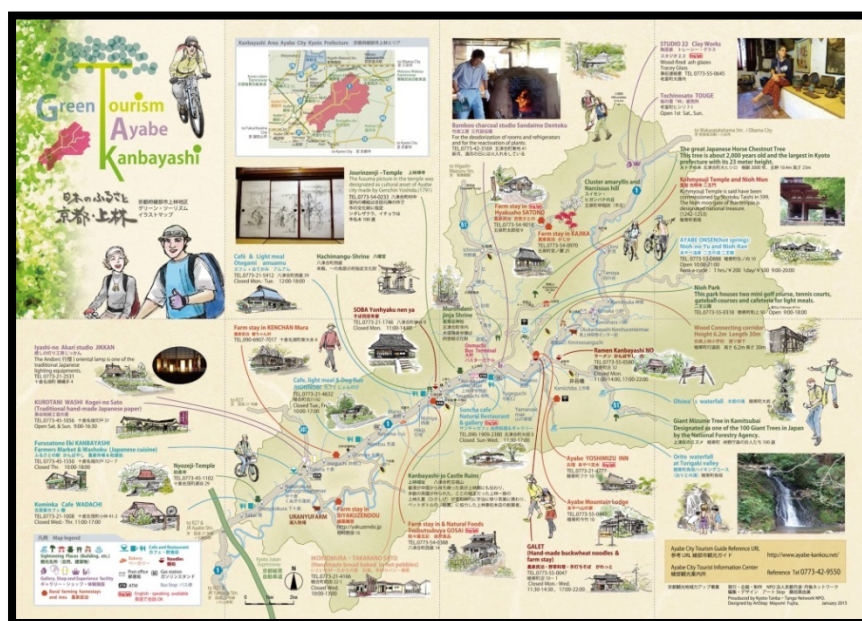




● 綾部上林の英語版マップ（グリーンツーリズム 綾部上林マップ）

→上林では近年、I ターン者によるカフェや民泊（うち1件はイギリス人女性が日本人男性と共に経営）も増加してきたことから、外国人が訪れることが多くなったが、英語版マップがなかったため、里山の散策などにも活用できるマップを作成し、取材させていただいた農家民泊や観光協会などに配布。

新聞などにも取り上げていただき、とても好評であった。



<作成したマップを、掲載した農家民泊などに配布、それぞれの民泊のイラストを掲載していることもあり、とても喜んでいただけた。>



● 丹後地域の英語版マップ（丹後観光マップ Sunset Map）

→丹後でもインバウンドツーリズムに力を入れているところであるが、多国語対応のマップがなかったことから、試作のマップを作成することとした。

配布先：天橋立・伊根の舟屋の観光案内所・道の駅のてんきてんき丹後・シルクのまちかや・京丹後市観光協会・アミティ丹後・ホテル吉翠苑・外湯花ゆうみ・木津温泉・久美浜温泉湯元館・ミルク工房そら・ホテルホリデーホーム・Bay Cook・宋雲寺・ホテルゆうゆうなど

マップ掲載先の御菓子司大道様、丹後の紅葉寺 慈徳院様、だいまるしょうゆカフェ様等からも喜んでいただいた。

こちらのマップについても新聞に取り上げていただき、道の駅などからも置きたいという連絡をいただいた。



(成果と課題)

これらのマップを実際にクルーズ船寄港の際に利用したり、民泊や観光協会などにおいていただいたところ、とても評判がよかったため、今後は地域と連携しながら各国語版マップの作成を続けていきたい。

【SNSによる情報発信】

京都北部の観光資源については、HPだけでなく当NPOのフェイスブックページでも紹介。また、英語塾等の参加を同ページで呼びかけるなども行った。



3 事業チームの体制

管理運営スタッフ

氏名	役割
森田 洋行	主にコーディネートや事業のアドバイスを担当
東家 零子	主に労務管理を担当

事業担当スタッフ

氏名	役割
辻野 茂樹	主に外国人の目線による観光情報の発掘、コンテンツの整理等
井上 佳奈	主に英語塾等の開催、困りごとアンケートの分析等

4 協働・参画体制

アドバイザー・講師など

渡辺 康一（一夢庵代表取締役、デジタルハリウッド客員教授）…HP 作成アドバイザー

ハドロック・ケント・ハイラム…マップ等の英訳、おもてなし英語塾講師他

山川 健太…舞鶴英語講座応用編講師、HP 英語版翻訳他

藤田 真由美…マップデザインアドバイザー、マップ制作

ANKU…マップガイドブック制作

企業・商店等

Jazz カフェ

舞鶴商店街

民宿・道の駅など

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織

概要

会員構成：正会員と賛助会員（団体・個人）の2つに区分

正会員（1口 1,000 円）6 名

賛助会員

寄附 218,000 円（8 月の豪雨災害による寄付を、たくさんの方から頂いた）



会議の開催

理事会の開催

日時 ……平成 2 7 年 4 月 2 7 日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所

出席者 ……眞下賢一、森田洋行、瀬野祐太

内容 ……2 0 1 4 年度事業報告、決算案、2 0 1 5 年度事業計画、予算案等

通常総会の開催（予定）

日時 ……平成 2 7 年 5 月 日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所

出席者 ……眞下賢一、森田洋行、その他会員等

委任状 ……

内容 ……2 0 1 4 年度事業報告、決算案、2 0 1 5 年度事業計画、予算案等



事務局体制

当 NPO の副理事長が事務局長として通年勤務。他 NPO スタッフとして 1 名の理事と 3 名のスタッフ、計 5 名体制で活動。